



ばばだめ!
JTサンダーズ広島

竹田 英司



退部する深津選手（前列
右から3人目）らと紅白
戦終了後に記念撮影

レガシー受け継ごう

独り身に戻った私はいつだったか、深津旭弘選手に「いいなあ、かわいい妻子がいて」と言ったことがある。深津選手は「大変だよ。妻も子も自分の思い通りになんてならないよ」と淡々と答えた。セッターとして選手を自在に操る司令塔でさえ、家庭を持つことは大変なのか、と驚いたことを思い出す。

その深津選手が「優勝するよ」と約束してくれた全日本男女選抜大会は2年連続で中止が決定。退部する選手の最後の舞台がなくなってしまったので、急ぎよ紅白戦をネット上で生配信した。試合は得点を決めた退部選手の胸上げや、深津選手に促されてサーブを打つ井上航「監督」の姿、主審への猛抗議、選手同士の小競り合いなどで楽しめた。私は試合前に記念出場を打診されたのだが、「ファンの皆さまは選手だけを見たいだろう」と辞退した。それが今でも心残りだ。

試合後に選手主催の反省会が開かれ、私は退任のあいさつに招かれた。エドガー副主将が立ち上がって語り始めると、亀渕雅史通訳が感極まって男泣きに泣いたので、私が通訳を引き継いだ。その胸に刺さったスピーチをここに記す。

「今まで世界中でバレーをやってきたが、JTほど愛着を抱いたチームは他にない。別れは胸が張り裂ける思いだが、去りゆく選手は俺たちにレガシー（遺産）を残してくれた。その遺産を大切に受け継いで、もっと強くなるろう」（JT広島マネジャー）